姶良歴史ボランティア協会広報誌 第33号　　発行日　平成30年3月8日（木）

あいらの歴史と物語

発行責任者　姶良歴史ボランティア協会
会　長　竹之下 洲一
編 集 者　広報部　恒吉 一洋

連絡先：〒899-5421　鹿児島県姶良市東餅田 498　　姶良市歴史民俗資料館　0995(65)1553

木田用水沿線の史跡を訪ねる

～ 秋季史跡めぐりイベント ～　　橘木 雅晴

平成29年11月4日（土）、木田用水路沿線史跡めぐりを開催しました。木田用水路は宇曽木発電所に隣接した獺貫隧道を起点として、流末は加治木帖佐境の鋼山製鉄所跡から別府川に注ぐ、全長5600mの用水路です。この用水路沿いには、多様な史跡が数多く残されています。平安時代からの木田氏の拠点施設と考えられる市頭遺跡、島津義弘夫人を祀る隈姫神社、県内最古級の寺・岩屋寺跡、加治木島津家長年寺墓地、義弘の忠臣自害地・後藤塚、江戸後期磁器生産地弥勒窯跡などがあります。今回イベントでは史跡めぐりの他に、九電ハイテック霧島工務所長による宇曽木発電所の見学会と概要解説、木田自興館長による木田の馬踊り・お田植祭・太鼓踊りの鹿児島弁解説があり、姶良の電力史や伝統行事にも触れていただきました。

獺貫隧道と池田助右衛門

明治44年（1911）、隈姫神社境内に「獺貫碑」が建立されました。建立を主唱した稲恒重節翁は加治木出身の反私学校党員で、西南戦争時は牢獄に入った人ですが、後に肝属郡長を務め農業改良に貢献しました。碑文によると木田地区は小高い丘陵に開けた土地のため、少しの日照りが続くと稲苗が枯れて農民を苦しめていました。池田助右衛門は加治木郷士で用水整備の協力者を集め、加治木領主の許可を得て万治２年（1659）に工事を始めました。しかし隧道は岩が固くて工事は進まず、工事費も膨れ上がり一緒に作業する仲間もいなくなってしまいました。助右衛門はそれでもあきらめず私財を投じ、一人で作業を続け「狂気の助右衛門」とまで言われました。３年７か月後、助右衛門の熱い思いは120間（約218m）の岩盤を掘りぬくことに成功しました。その後村人たちは驚喜して下流の水路を整備し、土地を開墾して約6000石の水田を造りました。

秋季史跡めぐりイベント

鴻ノ巣園跡

坂元　清美

現在、ここは姶良市加治木町木田中福良と呼ばれる場所です。島津義弘の時代、島津家の別荘があった場所で、文禄・慶長の役の時、朝鮮から連れて来られた王子がここで生活していたといわれています。

王子は故郷を懐かしく思い、いつも嘆き悲しんでいたそうです。そこで番役の兵士が「朝鮮が見える所に連れて行く」と言って鴻ノ巣園の前の峰に連れて行き酒宴を催したり踊りを踊らせたりして慰めていたといわれています。今でもこの山を「高麗舞の峰」と呼んでいます。

その後、朝鮮から使者が来て王子は無事に帰国できました。

加治木島津家６代久徴の時、別荘の跡に由来を刻んだ記念碑が建てられました。

高麗舞の峰

薬師如来座像【市指定有形文化財】

迫村あけみ

加治木の木田用水に沿った道を行くと、山側の木陰に薬師如来像が祀られた祠があります。

この像はクスノキの寄木造りと思われ、現在は頭部と胴体のみですが、それだけでも高さ165.5㎝もある大きな像です。弘治３年（1557）に作られました。

制作者は近くの岩屋寺の僧と思われる深賢

快重で製作依頼者は岩屋門の乙名六郎五郎とその妻・息子ということが、像の胎内で見つかった文書から判明しています。

快重には 16 世紀半ばに南九州での仏像制作の事蹟が数々あり、同じく岩屋寺の仏師僧と知られる快扶と共に仏師集団を形成していたと思われます。作風から本格的な技術を持った仏師であったと推定され、この如来像は廃仏毀釈を逃れた大型仏像として貴重な存在です。

薬師如来

薬師如来は、仏教が日本に伝えられた最も初期から信仰されていて、薬壺を持ち病気を治す仏様として知られています。

阿弥陀如来が死後の来世の平穏を司る仏なのに対して、薬師如来は、現世での苦しみを取り除き、安泰を司る仏として信仰されており、天台宗のご本尊でもあります。

法隆寺・薬師寺・比叡山延暦寺・京都東寺金堂などは、薬師如来が本尊として置かれています。

姶良公民館あやめ学級史跡めぐり

恒見　勝則

平成26年9月26日（火）、姶良公民館あやめ学級生約40名が、バス2台で加治木地区の史跡を探訪し、そのガイドを担当しました。

初めに、加治木の歴史の概要を理解するため加治木郷土館へ行きました。ここで館の職員から館の歴史や展示、資料館周辺の遺跡などの説明を受けました。

それから島津義弘公を祀る精矛神社や島津24代重年の妻・島津都美の墓などを訪ねました。学級生は島津都美の墓に隣接する都美の供養碑である亀趺碑に関心があったようでした。

ガイド終了後、学級生から感想文が届きました。「また郷土館へ行きたい」「自分たちの町にも大切なところがたくさんあるのにびっくり」「姶良市の知らない所を調べてみたい」など、史跡に関心をもたれた様子がうかがわれます。

あやめ学級のこれからのご発展を祈ります。

亀趺碑（きふひ）

亀趺（亀の形をした台）の上に置かれた墓や記念碑を亀趺碑という。ただの亀ではない、口には牙、顔には大きな耳がある。

中国古来の四神（青龍・白虎・朱雀・玄武）のうち玄武（亀）に由来するといわれる。

昔、中国の皇帝が高位の家来に亀趺墓の使用を認めたことに始まり、日本でも大名などの墓に使用された。

加治木屋形跡（養成講座ガイド実践から）

松下　澄行

太閤検地で豊臣秀吉の直轄領となっていた加治木1万石が、慶長4年（1599）島津氏に返還されました。

これを機に義弘は現在の加治木高校・柁城小学校周辺の土地を選び、易学者江夏友賢に縄を張らせ、標を立てさせて屋敷の位置を定めました。

屋形が完成した慶長12年（1607）に平松城から移り住み、元和5年（1619）に亡くなるまでここで過ごしました。

義弘の死後は息子の家久（初代薩摩藩主）が住み、藩政時代の約260年間、加治木島津家の居館として使われました。明治10年（1877）には西南戦争で鹿児島が兵火にあったため、仮県庁が約1年間置かれました。上の写真は、明治43年7月の「御仮屋馬場と時鐘だより」に掲載されたものです。

下の写真は現在の御仮屋馬場と義弘公屋形跡地内にある記念碑と護国神社です。

西郷隆盛の足跡を訪ねて　その３

蒲生の西郷隆盛

坂元　清美

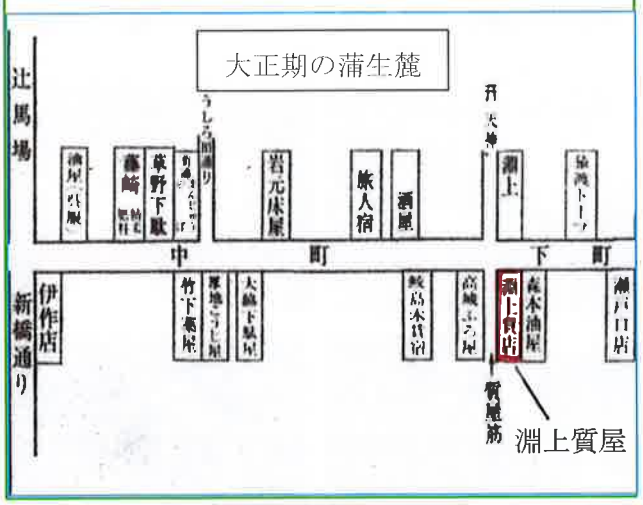
西南戦争敗走の途中、８月 16 日に可愛岳を突破した薩軍は、その後も各地で官軍と戦いながら、溝辺・山田を経て８月 31 日に蒲生に到着しました。

西郷は午後４時頃、先鋒と共に富田次兵衛方に輿を止めて休憩しました。

薩軍が蒲生麓を撃破して吉田街道に向かうと、西郷隆盛は別府晋介らと共に町馬場の淵上質屋に入りました。西郷は紺絣の単衣に白縮緬の兵児帯に着替え、独り奥座敷で読書し、軍議に関与しない人のようであったと言われています。淵上一家は難を避けて家におらず、店員・厚地太吉が使役を務めたことが分かっています。

９月１日午前３時頃、前・中・殿軍が隊伍を整えて鹿児島へ向かいました。鹿児島に入った薩軍は、官軍と最後の壮絶な戦いを敢行しました。

９月 24 日午前９時頃西郷は自決、薩軍は全滅し、７ヶ月余に及ぶ西南戦争はようやく終結しました。



座右の銘

堅忍不抜

恒吉　一洋

大久保利通は、座右の銘に二つの格言をあげています。一つは周知の「為政清明」です。政治家としてのあるべき姿を表現しています。

もう一つが表題の「堅忍不抜」です。「いかなる労苦にも耐え、自己の信念を貫く」という強い決意が伝わってきます。

維新前の激動期、久光に配慮しながらも、西郷や小松と共に倒幕に向けての朝廷工作や諸侯に対しての粘り強い交渉、第二次長州征伐反対の意思表示とそのための活動、維新後の外国視察で目覚めた国際感覚、それらを背景としての征韓論争での徹底した自己主張など、まさに「堅忍不抜」の心意気です。

大隈重信は「大久保は辛抱強い人で喜怒哀楽を前面に出さず、寡言沈黙、常に他人の説を聞いておる。「宜しかろう」と言ったら最後、必ず断行し決して変更しない。百難を排してでも遂行する」と語っています。

西郷隆盛死去１年後の明治 11 年（1878）５月 14 日、馬車で出勤途中、東京紀尾井坂で６人の暴徒（士族）に襲撃され満 47 歳の生涯を終えました。

似顔絵：ヒストリーランドより

西郷隆盛と同じく、まだまだ活躍してほしかった逸材を日本は失ったのです。

編集後記

NHK 大河ドラマ「西郷どん」が始まりました。

姶良市内にも西郷に関する史跡があります。本年初めに、私たちは西郷に関する認識をさらに深めるための勉強会をもちました。

皆様方からのガイド要請を心からお待ちしております。

連絡先　姶良市歴史民俗資料館　0995（65）1553